

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	愛の家グループホーム札幌福住(2Fひまわり)	評価実施年月日	平成19年7月1日
評価実施構成員氏名	・多久和 明美 ・荒井 誠 ・林 由香里 ・益田 昭子 ・古沢 好美 ・藤田 妙子		
記録者氏名	多久和 明美	記録年月日	平成19年8月1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ホームの理念があり、スタッフ一人一人に理解してもらっている。		スタッフ一人一人に理解してもらっている。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ユニット会議等で理念の話をし、スタッフ達と確認しあうようにしている。		会議等で理念 + ケアの話をし、より良いケアを目指したい。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	町内会の会合に参加することが少ない。		ユニットとしても地域友好促進、町内会の会合参加に取り組みたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩や畑作業時には、ご近所の方々にご挨拶し、日常的な付き合いが出来るように努めている。		散歩時等、必ずご近所の方々がいたら、ご挨拶している。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入している。		今後、更に地域活動に取り組んでいきたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	実習生の受け入れを通し、地域貢献に努めている。		近くの学校、保育園等と交流し、入居者様の生活に役立てるよう取り組みたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を全職員で行っている。毎月、ユニット会議で話し合い、改善するところを決め、取り組んでいる。		今後も自己評価を全職員で行い、ケアのクオリティを高めていきたい。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に運営推進会議を行っている。入居者様ご家族からの意見を頂き、サービス向上に活かしている。		仕事をしているご家族もあり、出来るだけ参加して頂けるよう、曜日・時間帯を検討していきたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議は行っているが、市町村担当者と行き来する場が不十分で、今後取り組んでいきたい。		市で行っている研修や会議等にホームとして参加していきたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	2Fひまわりでは、一人の入居者様が成年後見制度をしている。ホーム長と連携し合い、ご家族に関係機関への橋渡しを行った。		成年後見が必要なケースが少なく、スタッフ一人一人の理解は不十分である。今後、勉強会を開いていきたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ユニット会議やノートを活用し、虐待防止について理解と周知徹底を図っている。		全職員、高齢者虐待防止関連法を学びたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者・マネージャーが時間を取り、理解・納得を得るよう説明している。		医療連携体制に付いて詳しく説明している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様本位の運営を心がけている。入居者様の言葉や行動から思いを察し、すぐ話し合い、ケアに活かしている。		入居者様の立場に立ってケアに努めている。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	来訪時には必ず近況報告している。適時ご相談や報告の連絡をしている。お小遣いは預り証を発行し、安心して頂いている。		金銭管理は1階金庫で保管し、預り証を発行している。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族には電話や面会時等に意見など言ってもらえるよう、担当スタッフから声かけし、留意している。		ご家族からの意見などあったら、すぐミーティングを開き、対応している。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニットリーダーはスタッフの要望や意見を聞くよう心がけているが、苦情等は言い難い部分もあるので、日頃からこちらから働きかけている。		会議の場で一人一人から個々に意見や相談をしてもらえるよう働きかけている。また、相談は場所を変え1対1で話を聞いている。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	人数がぎりぎり、余裕のあるシフト作りができていない。		夏休みを取れるよう6月頃から声かけし、全員取れるよう調整している。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	スタッフ異動時は、ご家族に説明している。		離職が続いているので、働きやすい環境と収入アップをホームに提言していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎年、一人ずつ研修の機会を設けている。		介護の色々な外部の研修に参加できる体制をとっていきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同グループホームは札幌で5つあり、意見交換や研修の機会は定期的にあるが、他グループホームへの取り組みは不十分である。		他グループホームへの見学会を設け、ケアに活かしていきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	休憩の場所が確保されていない。親睦を深める場が少ない。		ストレス解消にむけ、色々と1つ1つ取組んでいきたい。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	スタッフの資格取得に向けた支援をしている。		職員が向上心を持って働けるよう職能評価(コンピテンシー)を設けている。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前面談を行っている。		事前面談で、ご本人の求めている事や不安を理解しようと努めている。ユニットリーダーやケアマネが同行するようにしている。
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族と話し合う機会を設けている。これまでの苦労やこれからの思いなど、話を聞きコミュニケーションを図っている。		ご家族と面会時や電話等でコミュニケーションを図っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時、出来る事はすぐに対応し、出来ない事も状況を見ながら改善策を話し合っている。		出来る事はすぐ対応し、すぐ出来ない事でも改善策を考え、ニーズに応えられるよう努めている。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人やご家族の見学をしてもらってから、入居されている。		ご本人や(可能な場合)ご家族の見学を勧めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の思いを受け止め、暮らしの中で共に支えあえる関係作りに努力している。また、職員が入居者から意図的に教わる場面を多くセッティングする等の工夫をしている。		入居者様の活躍の場を設けたり、感謝の気持ちを忘れず一緒にお手伝いを行っている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者様の様子をこまめに伝え、ご家族とスタッフと協力関係が築けるよう努力している。		ご家族には、生活習慣やエピソードを聞き、ケアに役立てている。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	ご家族、ご本人の思いを受け止めて、より良い関係を築けるよう支援している。		行事等のご家族の参加が不十分。今後はもっと参加しやすい日時など考慮していく。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	お墓参りや理容院への支援をし、行っている。		床屋に出かけたり、年2回程、墓参りに行ったりと支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	皆で楽しく過ごす時間を設けたり、個別に気の合う同士過ごせるようセッティング(座席に配慮等)している。スタッフは支援している。		入居者様同士、居室で雑談するのを見守ったり、レクや行事参加を働きかけている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された入居者様に、面会に行く等し、関わりを大切にしている。		退去された入居者様に面会に行っている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の生活の中で、入居者様の思いや要望の把握に努めている。意思疎通が困難な方にはご家族やスタッフ同士で連携し、取り組んでいる。		日々の関わりの中で、思いの把握に努めている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に、ご家族やご本人に生活歴やライフスタイルの情報を伝えてもらっている。また、小さな事柄でも伝えてもらえるよう雰囲気作りにも努めている。		入居者様本人からも、昔の話やエピソードを語ってもらい、ケアに活かしている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	本人の出来る事、わかる事を把握している。一人一人の生活リズムを理解しながら、ケアに努めている。		負担感のないよう配慮しながらできる事を少しずつ行っている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人やご家族の思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメント・モニタリング・カンファレンスはスタッフ全員で話し合っている。		ご本人がその人らしく生活出来るよう、ケアマネージャー・スタッフと連携しケアプラン作成している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアプランの期間終了前にカンファレンスを行い、プラン見直しを行っている。		本人、家族の要望を聞き、ケアプランに活かしている。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の食事・水分量・排泄等チェック、確認し合っている。記録には日々の暮らしの様子等具体的に記入しスタッフ全員確認している。		今後、センター方式導入を検討していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	看護師が勤務している(1名)。月2回の往診と訪問歯科診療の支援があり、ご本人、ご家族の要望に柔軟に対応している。		医療連携体制を確保し、入居者の安心と安全を保っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	周辺施設への働きかけはまだ不十分であるが、ボランティアの協力も不十分である。		管理者と連携し、支援体制を図る。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	町内会のお祭り等に参加している。また、月1回の理美容サービスを楽しみにされている。(外に理美容に出掛ける方もおり、個人の希望を尊重している)		地域の図書館や町内会が催す会にもっと参加できるよう取り組みたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	定期的に運営推進会議が行われており、情報交換をしている。		運営推進会議を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。2Fひまわりは1名馴染みのかかりつけ医、8名往診で、医療支援をしている。看護師が1名勤務している。複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		ご家族と協力して、受診援助を行っている。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	連携医療機関の医師に、認知症についての指示や助言を貰っている。よく相談にも応じてくれ、協力体制は整っている。		認知症に詳しい医師に相談し、指示やアドバイスを受けている。
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師が勤務している。入居者様の健康管理や医療面で相談や助言をしてもらっている。看護師がいない時は、スタッフは記録を元に連携している。		看護師を1名配置し、健康面を支えている。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	ホームで対応可能な段階で、なるべく早く退院できるよう支援している。		入院時にはスタッフが見舞いに行っている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居契約の際にホームの方針を伝えているが、入居後、計画的に話し合っている事はない。		ホームとして支援方法、方針を統一する中で、定期的に話しをしていきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人やご家族の意向を踏まえ、医師、スタッフが連携し、安心して最期を迎えられるよう取り組んでいるが、ハード面・ソフト面でまだ不十分。		スタッフチームが若く、変化に対応していけるよう取組中。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他事業所に移られた入居者様には、詳しい個別情報を伝えている。また本人、ご家族にも十分な話し合いを行い、住替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>		<p>住替えされた入居者様が昨年いたが、プライバシーに配慮しつつ詳しい情報をお伝えした。新しい住まいにも、スタッフが面会に行き交流を継続している。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>日々の関わりをチームで統一。プライバシー保護とその人の気持ちを尊重したケアに努めている。</p>		<p>入居者様の気持ちを尊重している。言葉遣い、態度、接し方等、スタッフと会議等で点検合っている。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者様一人一人に合わせ、声かけを行っている。また、意思表示が困難な方でも、食べたい物や着たい服等、YES・NOを表情から読み取るよう努めている。</p>		<p>入居者様一人一人の要望に添えるよう努めている。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な1日の流れはあるが、入居者様の体調や気持ちに添い、個別性を大事にケアしている。</p>		<p>買物支援や散歩等、入居者様の希望やペースで行っている。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>一人一人の生活習慣に合わせ支援している。</p>		<p>理美容はご本人の希望に合わせ、お店や訪問美容の支援をしている。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者様と一緒に準備や片付けを行っている。</p>		<p>入居者様と畑で野菜作りを毎年行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご本人が希望する食べ物(特にお菓子)や飲み物に常に配慮している。		入居者様の好きな飲み物を楽しんで頂いている。(例えば食事時に、氷水・お茶・麦茶・煎茶等)
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を使用している。排泄パターンを把握して、トイレ誘導をするようにしている。さりげない言葉かけを心掛けている。		時間や習慣に配慮しながら日々排泄支援している。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日が週2回決められているが、入居者様の希望で毎日でも入れるように配慮している。		入浴を拒む方には、ご家族と相談しながら、色々な対応や工夫をし、入浴支援を継続している。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ご本人の生活習慣を大事にしながら、休息や安眠の支援をしている。		日中の活動としてラジオ体操や散歩、レク等取り入れ、安眠できるようにしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	入居者様に楽しみと生き甲斐を持って過ごして頂けるよう、役割やお手伝いをお願いしている。		食事作り、メモ作り、畑作業など、入居者様と相談しながら行っている。感謝の言葉を伝えている。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族の協力を得て、少額のお金を持っている人もいます。また、ホーム管理でお小遣いとして預かっている方でも、外出時には支払い支援している。		買物支援では、ご自分の財布で買物できるよう配慮している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	日常的に散歩は行っている。ドライブや外出は毎月支援している。		ご家族と外出や外食を楽しんで頂けるよう支援している。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族と相談しながら、ご本人の行きたい所へ行けるよう支援している。		毎年墓参りに行かれている方もおり、支援継続している。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族や友人に電話使用を支援している。		継続して電話や手紙等の支援をしていく。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族や友人等、気軽に来やすい雰囲気作りを心掛けている。		笑顔で挨拶し、明るい雰囲気も大事にし、ご来訪の方々に接している。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	会議等で、スタッフのケアを点検・確認し合っている。また、言葉かけも注意し、チームとして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		日々の申し送り時等で、スタッフ同士ケアの確認をしている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	スタッフが一人になる時間帯があり、その時に施錠している。		出たい様子がある入居者様には、一緒に散歩に出掛けたり、茶話会をする等し、対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>日中は必ずスタッフが見守っている。夜間も巡回し、プライバシーに配慮しながら安全確認を行っている。</p>		<p>特に夜間は、安眠を妨げないよう音や光(明るさ)に配慮しながら巡回している。</p>
<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>入居者様の状況に応じ、保管すべきもの、保管管理が必要なもの、使用注意が必要なもの(裁縫道具や薬、ポリデント等)に分け、対応している。</p>		<p>十分に注意し、支援している。裁縫ではリビングルームにて行ってもらえるよう声かけし、針の数の確認も行っている。</p>
<p>事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>一人一人事故防止のため、様々な工夫をしている。</p>		<p>事故(転倒等)あった場合は、事故報告書記入、ご家族への説明と報告をしている。</p>
<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>会議等で話し合っているが、まだ不十分。</p>		<p>看護師中心に急変時の研修を行っているが、まだ全員ではない。</p>
<p>災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>消火器や設備点検を行っているが、地域住民の協力の働きかけは不十分。</p>		<p>今後、地域住民に働きかけていきたい。</p>
<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>ご家族には電話や面会時に、起こりえるリスクについて説明している。</p>		<p>ご家族と何度も話し合い、また、ケア確認書を交わし、細かに説明している。起こりえるリスクについて継続して話し合いを持っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人一人の体調の変化に気をつけたケアを心掛けている。		常に顔色・様子に注意している。毎朝必ずバイタルチェックしている。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	スタッフは服薬について理解し、入居者様の状態により柔軟に対応している。		バイタル表と服薬情報をセットにし、見やすいよう工夫している。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎朝、好みの乳製品を飲食している。毎日排泄チェックをしながら、トイレへ誘い、出来るだけ自然排便が出来るよう取り組んでいる。		日中の活動性を高める努力をしている。また、生活リズムを考慮した自然排便に取り組んでいる。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	入居者様の、出来る・ここまで出来るを見極め対応している。就寝時は義歯洗浄を行っている。		就寝前は義歯洗浄を行っている。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分チェックは毎回行っており、野菜嫌いの入居者様には、味を説明したり、美味しいということが伝わるよう言葉かけを工夫している。		毎食、残食チェックをしている。残食の多い入居者様には声かけしたり工夫している。継続して工夫していきたい。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルがある。また、インフルエンザ予防接種を毎年行っている。		インフルエンザ予防接種を毎年行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	新鮮で安全な食材の使用に努めている。調理日誌を毎回記入、冷蔵庫の温度にも気をつけている。		調理日誌を毎回記入。予防マニュアルを設置し、毎夜、布巾・三角コーナー等はキッチンハイター(ジアノック)に漬け、洗浄している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	明るい雰囲気になるよう造花を配置。また、歩行用に手すりがあり、入居者様の動線を考慮し、過度な設けは控えている。		2階ひまわりらしい飾り付けを工夫して行っていきたい。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	飾り付けやメニューに季節感を取り入れている。食堂・居間は、入居者様に居心地良く過ごせるよう工夫している。		生活感や季節感を取り入れているが、もう少し工夫したい。入居者様と考えていく。
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	駐車場側ベンチを活用している。また、気の合った入居者様同士で過ごせるよう座席配置を工夫している。		入居者様がおしゃべりできるよう座席に配慮している。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	写真や使い慣れた日用品を使用してもらえよう支援している。		写真・アルバム等飾ったりし、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の様子がないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	2階は1階と3階に挟まれている為、室温が高くなりがちな為、入居者様に聞きながら換気や暖房を入れている。		強度の寒がりの入居者様には、下着のアドバイスをしたり、タオルや膝掛等常備し、細かに対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	車椅子や歩行器は入居者様の状態に合わせて取り入れている。居住環境が適しているか会議等で意見交換し、確認し合っている。		全面バリアフリー、手すり有りと、ハード面は良いが、お風呂の手すりが少ないので、ホーム側と相談していきたい。
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居者様の状態に合わせて、環境整備に努めている。		トイレがわからなく、居室でされる入居者様には、トイレ場所の案内や様子を見て声かけする等、色々と工夫し取り組んでいる。
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	夏場は畑作りを行っている。また、駐車場スペースは散歩コースに活用している。		夏場は出来るだけ外に洗濯物を干し、活用していきたい。

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

2階ひまわりでは、介護度2から全介助の5を有する入居者様が過ごされています。その中で、他者を思いやりお手伝いをされたり、スタッフと共に食事作りに参加されたりと、共同の場が構築されています。人間として生きる力を日々教わっていると思います。入居者様の状態が変われば、柔軟にスタッフも対応しています。これからも元気なユニットであるよう努めていきたいと思ひます。